れ、編輯責任者となり、編輯・発行所を自宅におく。以後昭和十九年九月まで編輯人をつとめる。大正三年結婚、同六年、芝区白金三光町に移転、開業(産婦人科・内科・小児科)、同九年より日本女医会評議員、昭和十一年　日本女医の祖「荻野吟子」(戯曲)、同十二年三月　日本女医五十年史年表(草稿)、同年八月　先輩名簿、を各々日本女医会雑誌に発表、同十八年一月から医事公論女医に日本女医五十年史に執筆・発表(未完)。この他、荻野吟・生澤久及・高橋瑞子・石黒忠悳の訪問記等、親友杉田つるとの名コンビで、先駆者達の足跡を正確かつ多彩に綴った功績は枚挙に遑がない。昭和三十四年十月　病を得て逝去、東京谷中霊園に眠る。俳人として「みすゞ会」を主宰した。

(付)日本女医会　明治三十五年四月　前田園(済生学舎卒)により創立(第一回例会幹事　前田園・塚原雄子)　大正二年六月機関誌「日本女医会雑誌」を発刊、大正八年九月　第一回萬国女医会議(ニューヨーク)開かれ、井上友子代表として出席し、この時設立された萬国女医会に加盟す。大正九年四月　会長・評議員を設け、会長吉岡弥生。昭和十一年五月　日本女医公許五十周年の記念式典・資料展を行う(於・上野精養軒)。

なお、戦後昭和二十七年十一月　日本女医会は再発足した。

7　その他、日本医学校の助手(無給)として、山田(善行寺)玉興・綾井(種坂)章江・三塩(安部)スミ・福井良子が務め、日本女医会には、大貫(内田)セツ・島峰(菅野)いちが評議員として活躍した。

第7回北陸医史学同好会

昭和六十年七月十四日(日)

一、楢林健三郎の墨蹟と翻訳書　正橋　剛二　松田　健史

二、資料紹介と展示

(一)　南保家書翰等　難波　恒雄　植村　元覚　宗玄　明

(二)　高岡市医師会記念誌　野尻　功　石坂　栄造　正橋　剛二

(三)　滑川東北部人物風土記　松田　健史

三、館玄龍、佩刀の脇差　館　秀夫

四、向井元井撰「庖厨和名本草」　加藤　豊明

五、半井南陽先生の漢詩について　岩治　勇一

六、水野朗製作の医人塑像について　寺畑　喜朔

(特別講演)

半井家について　富山大学名誉教授　高瀬　重雄

七、北陸地方における牛痘法の普及について　正橋　剛二　松田　健史

八、石川県金沢病院の写真について　寺畑　喜朔　津田　進三
九、越前鯖江藩・土屋家文書　岩治　勇一　白崎昭一郎
一〇、北陸地方における看護の発展（そのⅢ）
石川県における看護教育のはじまり　萩野　妙子　金川　克子
天津　栄子　泉　キヨ子
一一、今昔物語集の中の医学（そのⅣ）　白崎　昭一郎
一二、金創医の出現と「神保流金瘡療治」　加藤　豊明